



4月 健やか子育てだより

今月のテーマ

こどもの転落事故予防

大田区保育サービス課
保育園 看護師

暖かくなると、窓を開けたりベランダに出たりする機会が増えてきます。ベランダや窓などからこどもが転落する事故が毎年のように発生しています。こどもの転落事故を未然に防ぐため、自宅でする対策を紹介します。

転落事故を防ぐために

〈こどもだけを家に残して外出しない〉

こどもは家に保護者がいないことに気づくと不安になって家中を探し回ります。その時、窓のカギを開ける、ベランダから外をのぞき込む事もあります。

〈こどもだけで窓を開けた部屋やベランダで遊ばせない〉

こどもは活発なことができるようになり、興味本位で何でもしがりますが、まだ危険かどうかの判断をすることが難しく、注意が必要です。こどもたちだけで、窓やベランダで遊んでいるときに多く発生しています。

事故予防に最も大切なことは、大人がこどもを見守り、一人にしないことです。

転落事故を防ぐ環境作り

*こどもの見守りと合わせて、転落事故が起こらない環境づくりを行いましょう

〈補助錠を付ける〉

こどもがひとりで窓や網戸を開けてベランダに出ないように、窓や網戸にはこどもの手の届かない位置に補助錠を付けると良いでしょう。特に網戸は小さいこどもの力でも簡単に開くので、施錠を徹底しましょう。



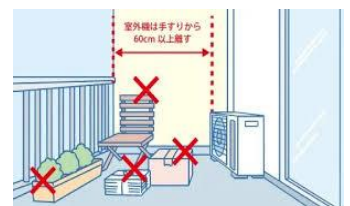
〈窓枠や出窓に座って遊んだり、窓や網戸に寄りかかったりさせない〉

出窓に座って遊んでいて、網戸が外れ落下する、ソファやベッドなどの家具を足場にして、窓から転落する事故が起きています。窓に近い場所には、できるだけ物を置かないように部屋のレイアウトを工夫しましょう。



〈ベランダには物を置かない〉

こどもは様々な物を踏み台にします。ベランダにおもちゃ、プランター、段ボール、椅子など置かないようにし、エアコンの室外機は、手すりから60cm以上離して設置しましょう。



窓、網戸、ベランダの手すりなどに劣化がないかも定期的に点検しましょう。